

## 病害虫発生予察情報予報第 2 号（6 月の予報）

佐賀県農業技術防除センター




6 月 1 日～8 月 31 日の 3 か月間は農薬危害防止運動期間です。





農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理を徹底しましょう。


1. 農薬の使用前には、ラベルの内容を確認しましょう。
2. 農薬は、ほ場面積等に応じた必要量を調整し、残りが出ないようにしてください。万一、残った場合でも、水系に廃棄してはいけません。
3. 農薬の散布においては、周囲への飛散を避けるため、風向きに注意して下さい。また、強風時の散布は控えましょう。

### I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 <sup>注1)</sup>	6 月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病害虫防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
水稲 (早期)	葉いもち	並	やや多	126～135 137～142	 いもち病
	イネミズゾウムシ	並	並	170～171	
水稲 (早植え)	葉いもち	並	並	126～135 137～142	
	イネミズゾウムシ	やや多	やや多	170～171	
水稲 (普通期)	葉いもち	並	並	126～135 137～142	
	スクミリングガイ	多	並	162～168	
	<b>1. トビイロウンカ</b> 薬剤の効果を確保するため、育苗箱処理剤は、基準量をむらなく処理する。 <b>2. もみ枯細菌病・白葉枯病</b> もみ枯細菌病が育苗箱で発生した場合や白葉枯病の常発圃場では、これらに登録のある育苗箱処理剤を必ず処理する。 <b>3. スクミリングガイ</b> 暖冬で経過したことから、越冬生貝率が高く、発生が多くなると予想される。水路から水田への侵入を防ぐとともに、移植後に水田内の貝の発生が多い場合は捕殺し、浅水管理や薬剤防除等の対策を徹底する。				
水稲全般	縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)	並	並	158～159	

作物名	病害虫名 <sup>注1)</sup>	6月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病害虫防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
イチゴ (育苗圃)	ハダニ類	多	多	209~210	 ハダニ類
	うどんこ病	やや少	やや多	199~201	
	苗立枯症 (炭疽病・疫病)	やや多	やや多	203~208	
	アブラムシ類	並	並	214~215	
	<b>1. ハダニ類</b> 本圃での発生を抑えるため、育苗期の防除を徹底する。薬剤防除には、薬剤抵抗性の発達が少ないとされる気門封鎖系薬剤も活用する。ただし、これらの薬剤は卵に対して効果が無いものが多いので、5~7日間隔での2回散布を1セットとし、発生状況に応じて数セット散布する。				
<b>2. 炭疽病、疫病、萎黄病</b> 前作では炭疽病により本圃で大きな被害を受けた圃場がみられた。今作での発生を抑えるため、親株床から定期的な薬剤防除を徹底する。また、伝染拡大を防ぐため、雨よけを行い、灌水は天候、時間およびポットの乾き具合を考慮して高湿度条件を長時間維持しないよう実施する。さらに、発病株を認めた場合は、早急に圃場外に持ち出し適切に処分する。					
アスパラガス	茎枯病	並	並	313~314	 ネギアザミウマ
	褐斑病	並	並	315~316	
	斑点病	やや多	やや多	314~315	
	アザミウマ類	多	並	317~318	
	ハダニ類	並	並	318~319	
<b>1. アザミウマ類</b> 現時点において、発生が平年より多く、さらに、今後は気温の上昇とともに周囲からの飛び込みも増えると予想される。虫見板(約20×30cm)への払い落とし(擬葉部を2~3回叩く)で、成虫が1ヶ所当たり3頭以上認められる場合は薬剤防除を行う。					
<b>2. 茎枯病、褐斑病、斑点病</b> 晴天日には施設開口部を開放し、通風を図る。各病害とも予防散布を基本とし、発生前から3週間間隔を目安として薬剤防除を実施する(前年多発生圃場及び既発生圃場、降雨日が続く場合は間隔を短縮)。特に、茎枯病については、降雨時にサイドビニルを降ろし雨の降込みを防ぐとともに、発病茎は見つけ次第、除去し適切に処分する。					
施設果菜類	<b>1. アザミウマ類、コナジラミ類</b> 施設内に残ったアザミウマ類やコナジラミ類の野外への拡散を防ぐため、栽培終了時に施設の密閉処理(蒸し込み)を必ず行い、これらの害虫を死滅させる。				
果樹全般	果樹カメムシ類	多	多	240~243	 チャバネアオカメムシ
	<b>1. 果樹カメムシ類</b> 県内各地に設置した予察灯及びフェロモントラップにおいて誘殺虫数が増加している。また、一部地域では果樹園内への飛来および果実被害が確認されている。発生状況は地域や園により異なるため、園内外を確認し、発生が確認されたら早急に防除を行う。(令和2年5月19日付け病害虫対策資料第2号参照)				

作物名	病虫害名 <sup>注1)</sup>	6月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病虫害防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
カンキツ	そうか病	やや多	やや多	209~211	 ミカンハダニ
	かいよう病	やや多	やや多	213~215	
	黒点病	やや多	やや多	211~213	
	灰色かび病	並	並	215~216	
	ミカンハダニ	多	並	234~236	
	チャノキイロアザミウマ	やや多	やや少	229~233	
	<b>1. かいよう病</b> 昨年は台風や強風雨があり、昨年10月および本年3月の調査においても一部圃場で発生を確認しているため、園内の菌密度は高いと推察される。6月までは本病の重要な防除時期であり、今後の多発生を防ぐため、本病が発生しやすい園および幼木園では防除を徹底する。				
	<b>2. 灰色かび病</b> 本年は着花が多い園が多く、本病が発生しやすい条件となっている。傷果防止のため一時落果期（6月1半旬頃）に薬剤防除を行う。				
	<b>3. ミカンハダニ</b> 現時点で発生が多く、今後も多発生が予想されている。殺ダニ剤に対する感受性の低下を防ぐため、6月まではマシン油乳剤での対応を基本とするが、着果が少ない樹や樹勢が低下している樹ではマシン油乳剤の使用を控え、殺ダニ剤散布での対応とする。				
ナシ	黒星病	やや少	並	279~282	 ナシ黒星病
	ナシヒメシंकイ	やや多	やや多	293~295	
	<b>1. 黒星病</b> 6月中旬までの薬剤防除は、原則的に保護殺菌剤を使用するが、既に発生している場合はDMI剤を散布する。また、6月下旬頃は主要な感染時期であるため、DMI剤を用いた防除を必ず実施する。				
	<b>2. スピードスプレーヤーによる薬剤散布</b> 全列走行を基本とし、薬液が到達しにくい園周縁部等は手散布を実施するなど、丁寧に散布する。				
ブドウ	黒とう病	並	並	327~329	 ブドウ黒とう病
	べと病	並	並	330~332	
	褐斑病	並	並	332~333	
	チャノキイロアザミウマ	やや多	やや少	339~340	
	<b>1. スピードスプレーヤーによる薬剤散布</b> 全列走行を基本とし、薬液が到達しにくい園周縁部等は手散布を実施するなど、丁寧に散布する。				
	<b>2. 果粒の汚れ及び果粉の溶脱の防止</b> 小豆大の時期までの防除を徹底する。袋かけ前（大豆大期）に薬剤防除を行う際は、果粒の汚れ及び果粉の溶脱が少ない薬剤を選定する。				
キウイフルーツ	<b>1. かいよう病</b> 6月まではすべての園において、銅水和剤を主体とした定期的な薬剤防除を実施する。特に幼木は成木に比べ発病しやすく影響が大きいため、薬剤防除を徹底する。				 葉の斑点症状

作物名	病虫害名 <sup>注1)</sup>	6月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病虫害防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
茶	カンザワハダニ	並	少	418~419	 炭疽病
	クワシロカイガラムシ	並	やや少	425~426	
	チャノキイロアザミウマ	並	やや少	424~425	
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	やや少	423~424	
	チャノコカクモンハマキ	並	少	422~423	
	チャノホソガ	やや多	多	421	
	炭疽病	やや多	やや多	413~414	
<p><b>1. カンザワハダニ</b> 多発生すると防除が困難となるため、二番茶の摘採に向け園内の発生状況の把握に努め、発生があった場合は二番茶の摘採前使用日数に注意して薬剤防除を行う。</p> <p><b>2. ナガチャコガネ</b> 二番茶の開葉初期（5月下旬~6月中旬頃）が、羽化期~成虫発生初期にあたり防除適期であるため、発生圃場では薬剤防除を実施する。</p> <p><b>3. 輪斑病、新梢枯死症</b> 摘採等による葉や茎の傷口に病原菌が付着して感染するため、発生の多い圃場では二番茶の摘採直後に薬剤散布を行う。</p>					

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

## II. 予報の内容・根拠等について

### 予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。  
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

### 予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。  
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

### 防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

### 写真

- 1～4 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。  
6 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

### 6月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 6 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 1 ヶ月予報（令和 2 年 5 月 21 日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年よりやや多い」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1 ヶ月予報における 6 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	30 (23.3℃)	50	高い
降水量	20	40 (339 mm)	40	やや多

### Ⅲ. 6月の予報

## 水稻（早期、上場地域）

定期調査：12 圃場  
調査日：5月18日



定期調査圃場の様子

### 1. 葉いもち

[【 概要に戻る 】](#)

#### 1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

#### 2) 予報の根拠

##### (1) 発生の現況

###### ①定期調査（図1 参照）

発生株率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉

##### (2) 6月の気象予報

気温が高く、降水量がやや多く、並発生の条件〈±〉

#### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 補植苗や畦畔に放置された残り苗は、葉いもちの伝染源になるので活着後に速やかに処分する。

(2) 葉いもちの発生が確認された圃場では、早急に防除を実施する。

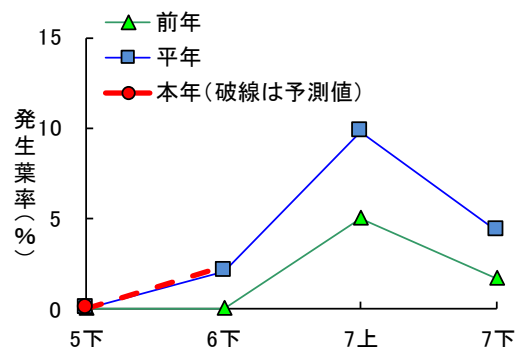


図1 早期水稻での葉いもちの発生推移

### 2. イネミズゾウムシ

#### 1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

#### 2) 予報の根拠

##### (1) 発生の現況

###### ①定期調査 食害株率：22.0%（平年30.5%、前年31.7%）

平年比：やや少〈一〜±〉 前年比：やや少〈一〜±〉

##### (2) 6月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

#### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 本田で成虫が10株当たり5頭以上確認されたら、薬剤防除を行う。

## 水稻（山間早植え）

[【 概要に戻る 】](#)

### 1. 葉いもち

#### 1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

#### 2) 予報の根拠

##### (1) 前年の穂いもちの発生状況

令和元年の山間早植え水稻（9月上旬）における穂いもちの発生株率は、1.8%（平年9.1%）であり、平年よりやや少なかった。〈一〜±〉

##### (2) 6月の気象予報

気温が高く、降水量がやや多く、並発生の条件〈±〉

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 補植苗や畦畔に放置された残り苗は、葉いもちの伝染源になるので速やかに処分する。
- (2) 葉いもちの発生が確認された圃場では、早急に防除を実施する。

## 2. イネミズゾウムシ

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

### 2) 予報の根拠

- (1) 前年の発生状況（越冬密度）  
前年の発生は平年並であり、越冬密度は平年並と考えられる。〈±〉
- (2) 6月の気象予報  
気温が高く、多発生の条件〈+〉

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本田で成虫が10株当たり5頭以上みられたら、薬剤防除を行う。

## 水稻（普通期）

[【 概要に戻る 】](#)

## 1. 葉いもち

### 1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

### 2) 予報の根拠

- (1) 前年の穂いもちの発生状況  
令和元年の普通期水稻（10月上旬）における穂いもちの発生株率は、9.7%（平年15.5%）であり、平年並であった。〈±〉
- (2) 6月の気象予報  
気温が高く、降水量がやや多く、並発生の条件〈±〉

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 補植苗や畦畔に放置された残り苗は、葉いもちの伝染源になるので速やかに処分する。
- (2) 葉いもちの発生が確認された圃場では、早急に防除を実施する。

## 2. スクミリングガイ

### 1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年並）

### 2) 予報の根拠

- (1) 越冬状況（図1参照）  
令和元年（2019年）12月～令和2年（2020年）2月の佐賀市の平均気温は8.9℃であり、平年（6.8℃：10年平均）より高かったことから、水田内での越冬生貝率は平年より高いと推定される。〈+〉  
※過去の冬期の気温と翌春の越冬生貝率との解析の結果、両者の間に明確な正の相関が認められている。
- (2) 6月の気象予報  
気温が高く、多発生の条件〈+〉

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 用排水路・クレークにおいて密度の高い地域では、貝及び卵塊を捕殺する。

(2)その他については、特記事項を参照する。

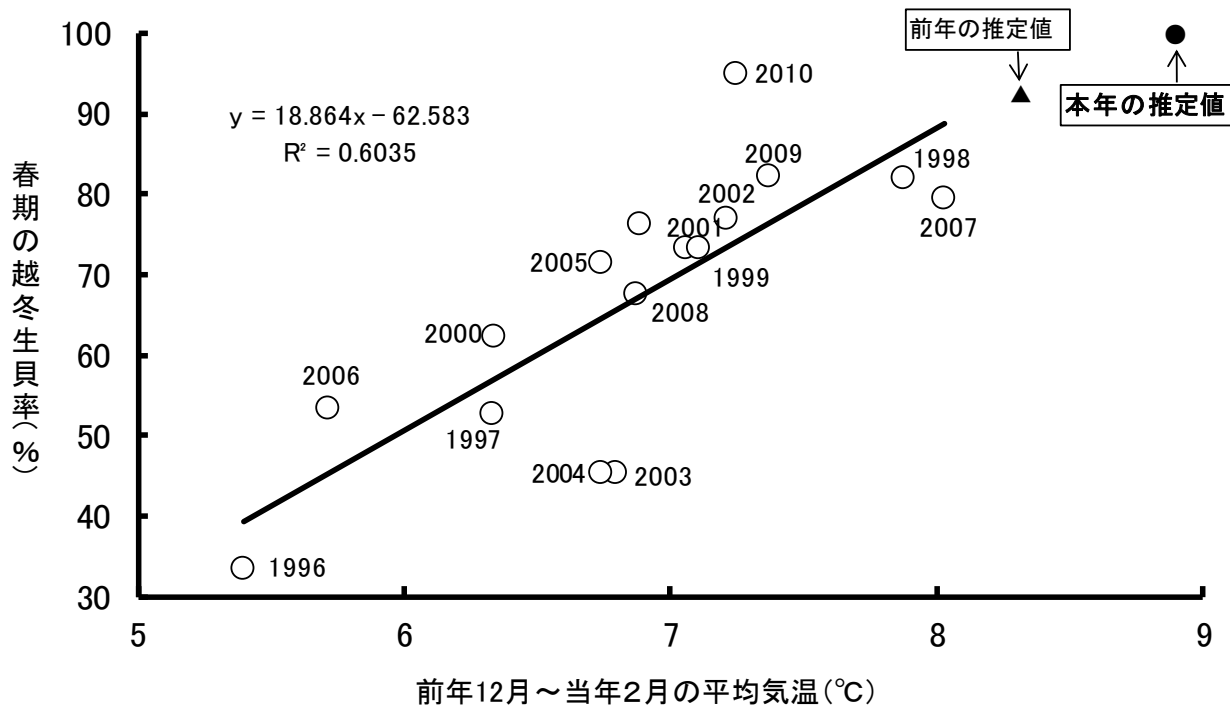


図1 冬期(12~2月)の佐賀市の平均気温と水田内でのスクミリンゴガイの越冬生貝率(4月)との関係  
○:1995~2010年の実測値(佐賀市の気温と、佐賀市内の同一水田における越冬生貝率。水田の越冬調査は、2010年で終了)

●:2019年12月~2020年2月の気温を用いて上記の関係式から推定した本年(2020年)春期の越冬生貝率

▲:2018年12月~2019年2月の気温を用いて上記の関係式から推定した前年(2019年)春季の越冬生貝率

## 水稲 (全般)

[【 概要に戻る 】](#)

### 1. 縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)

#### 1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

#### 2) 予報の根拠

##### (1) 発生の実況

##### ① 定期調査(早期水稲)

発生株率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並(±) 前年比：並(±)

##### ② 小麦における20回すくい取り (第1表参照)

ヒメトビウンカ第1世代幼虫数18.1頭 (平年24.3頭、前年50.2頭)

平年比：並(±) 前年比：少(ー)

##### (2) 近年の動向 (第2表参照)

小麦から採集したヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、近年やや低く推移している。

(ー~±)

#### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 本病はヒメトビウンカが媒介するため、ウンカ類を対象とした育苗箱施用剤を使用する。

(2) 発病株が認められた圃場では、発病株を抜き取るとともに、ヒメトビウンカを対象とした薬剤防除を行う。



第1表 各調査地点におけるヒメトビウンカの発生  
(令和2年5月18~21日)

調査地点	20回すくいとり虫数 (各地点2圃場平均) 頭
佐賀市1	15.5
佐賀市2	6.5
神埼市	10.5
小城市1	16.5
小城市2	6.5
多久市	46.5
武雄市	33.5
鹿島市	14.5
みやき町	18.5
吉野ヶ里町	2.0
白石町	29.0
平均	<b>18.1</b>

第2表 近年のヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

	平成21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
保毒虫率 (県平均)	1.6	1.3	4.2	0.9	1.0	0.0	0.3	0.0	1.1	0.3	0.3

注)5月中~下旬にヒメトビウンカを小麦圃場から採集し、冷凍保存後検定を実施(令和元年採集虫は冷凍保存後令和2年1月に検定実施)。

## イチゴ(育苗圃)

(定期調査9圃場)  
調査日:5月18~20日



定期調査圃場の様子

### 1. ハダニ類

[【概要に戻る】](#)

#### 1) 予報の内容

発生量: 平年より多い (前年より多い)

#### 2) 予報の根拠

##### (1) 発生の現況

###### ① 定期調査 (図1 参照)

発生株率: 8.9% (平年 2.3%、前年 3.6%)

平年比: 多く(+) 前年比: 多く(+)

###### (2) 6月の気象予報

気温が平年より高く、降水量がやや多く、やや多発生の条件(±~+)

#### 3) 防除上注意すべき事項

- 圃場によりハダニ類の薬剤感受性が異なるため、防除効果を確認し、薬剤を選定する。
- その他については、特記事項を参照。

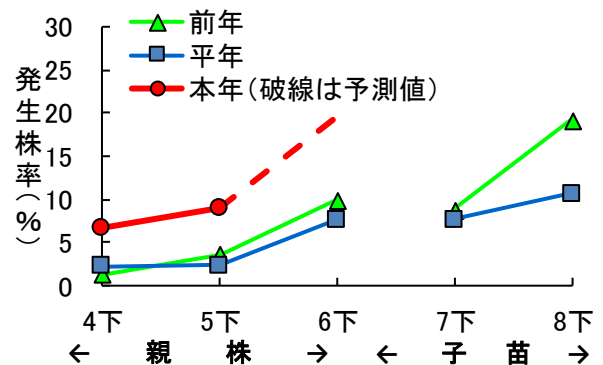


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

## 2. うどんこ病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや少ない（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ① 定期調査（図1参照）  
発生株率：1.3%（平年14.1%、前年0%）  
平年比：少（-） 前年比：並（並）
    - ② 6月の気象予報  
気温が平年より高く、降水量がやや多く、並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 定期的な薬剤防除を実施する。

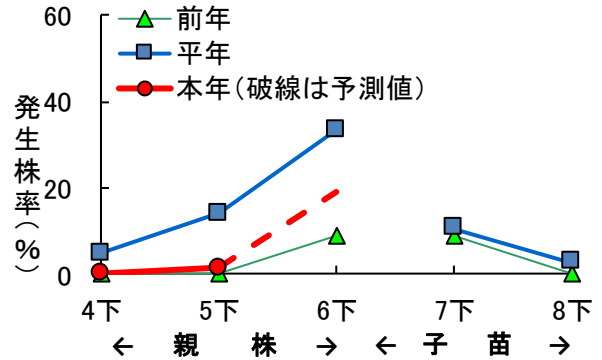


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

## 3. 苗立枯症（炭疽病・疫病）

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ① 定期調査（図1参照）  
発生株率：0%（平年0%、前年0%）  
平年比：並（±） 前年比：並（±）
    - ② 6月の気象予報  
降水量が平年よりやや多く、やや多発生の条件（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 梅雨期は、病原菌の飛散・感染に好適な時期であるため、防除を徹底する。
  - (2) その他については、特記事項を参照する。

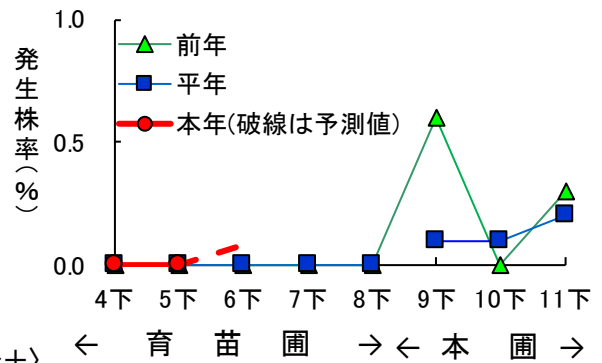


図1 イチゴ立枯症の発生推移

## アスパラガス

定期調査：7 圃場  
調査日：5月18～20日



定期調査圃場の様子

### 1. 茎枯病

[【 概要に戻る 】](#)

- 1) 予報の内容  
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ① 定期調査（図1参照）  
発生茎率：0%（平年0.1%、前年0.1%）  
平年比：少（-） 前年比：少（-）
    - ② 6月の気象予報  
降水量が平年よりやや多く、やや多発生の条件（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 特記事項を参照。

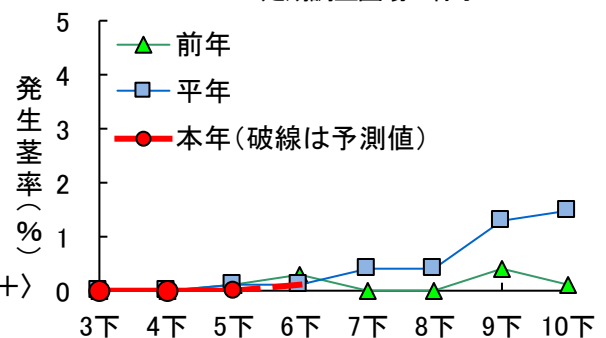


図1 アスパラガス茎枯病の発生推移

## 2. 褐斑病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ① 定期調査（図1参照）  
発生茎率：0%（平年0.1%、前年0%）  
平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）
    - ② 6月の気象予報  
降水量が平年よりやや多く、やや多発生の条件（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 特記事項を参照。

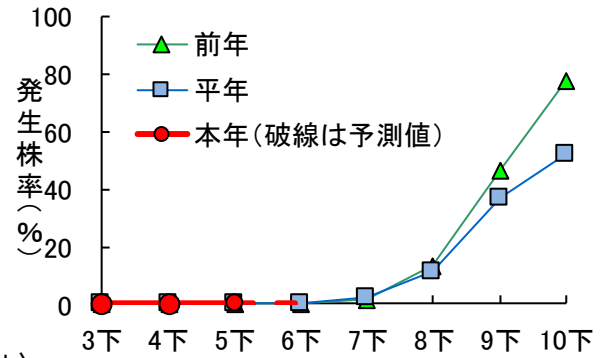


図1 アスパラガス褐斑病の発生推移

## 3. 斑点病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ① 定期調査（図1参照）  
発生茎率：0%（平年0.7%、前年0%）  
平年比：並（±） 前年比：並（±）
    - ② 6月の気象予報  
降水量が平年よりやや多く、やや多発生の条件（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 特記事項を参照。

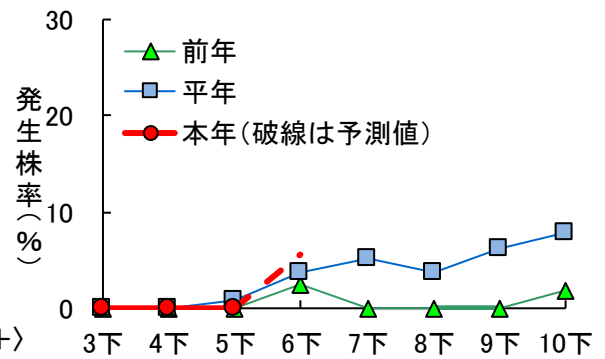


図1 アスパラガス斑点病の発生推移

## 4. アザミウマ類

- 1) 予報の内容  
発生量：平年より多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ① 定期調査（図1参照）  
発生株率：57.1%（平年29.2%、前年51.3%）  
平年比：多（+） 前年比：並（±）
    - ② 6月の気象予報  
気温が平年より高く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 特記事項を参照。

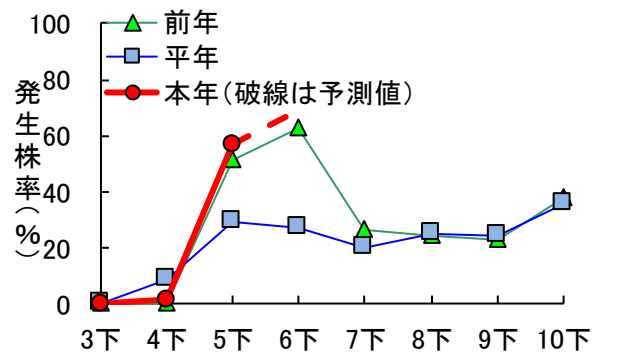


図1 アスパラガスでのアザミウマ類の発生推移

## 1. カメムシ類

### 1) 予報の内容 (4月～8月上旬)

発生量：平年より多い (前年より多い)

### 2) 予報の根拠

(1) チャバネアオカメムシの越冬状況調査 (詳細は、令和2年3月4日付け病害虫対策資料第15号参照)

①越冬地点率：68.2% (平年37.3%、前年54.5%)

平年比：多く(+) 前年比：やや多(±～+)

②平均越冬虫数：0.52頭/m<sup>2</sup> (平年0.26頭/m<sup>2</sup>、前0年0.24頭/m<sup>2</sup>)

平年比：多く(+) 前年比：多(+)

(2) 発生の現況

①予察灯 (図1参照)

平年比：多く(+) 前年比：多(+)

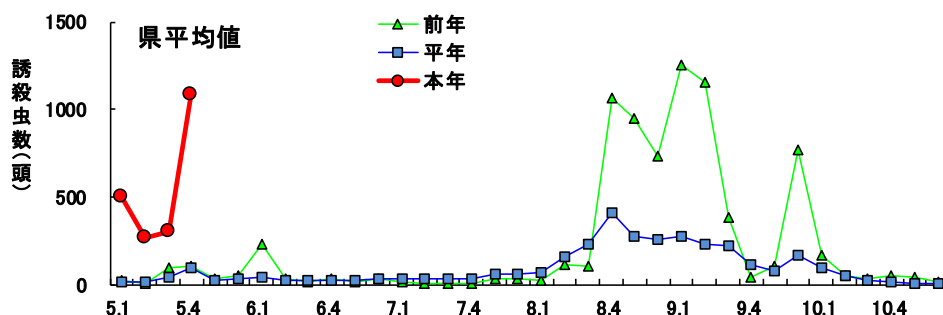


図1 予察灯 (佐賀市、小城市) による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

②フェロモントラップ (図2参照)

平年比：多く(+) 前年比：多(+)

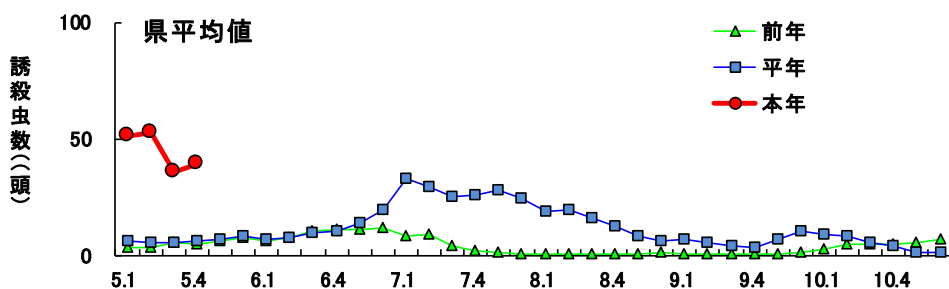


図2 フェロモントラップ (小城市、鹿島市、伊万里市、唐津市浜玉町、唐津市鎮西町、基山町、太良町) による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項および令和2年5月19日付け病害虫対策資料第2号を参照。

# カンキツ

定期調査：8 圃場  
調査日：5 月 15～20 日



定期調査圃場の様子

## 1. そうか病

[【 概要に戻る 】](#)

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図 1 参照）

発生葉率：0%（平年 0%、前年 0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

#### (2) 6 月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果実に薬害を生じる場合があるため、デランフロアブルとマシン油乳剤の混用又は近接散布は行わない。ただし、1 回目の散布から 200 mm 以上の降雨があれば薬害を生じにくいいため、近接散布が可能である。

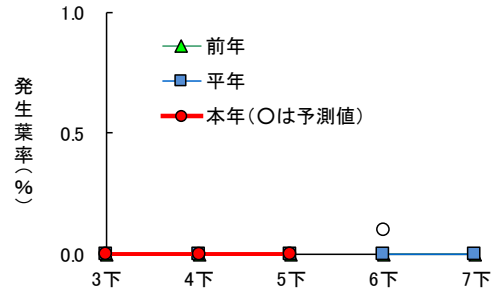


図 1 カンキツそうか病の発生推移

注) 5 月下旬までは旧葉を調査

## 2. かいよう病

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図 1 参照）

発生葉率：0%（平年 0%、前年 0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

#### (2) 6 月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 前年に発生した園や風当たりが強い園、罹病性品種（レモン、ネーブル、はるみ等）の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園（幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等）など発生が問題となる園では、無機銅剤水和剤（クレフノン 200 倍加用）で定期的に防除を行う。散布間隔の目安は 20～25 日とする。
- (2) 発病した枝や葉は伝染源となるため除去し、処分する。ただし、強剪定は枝を遅くまで伸長させ、本病にかかりやすい期間を長くするため行わない。

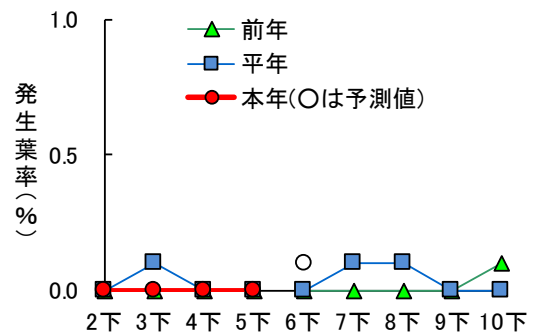


図 1 カンキツかいよう病の発生推移

注) 5 月下旬までは旧葉を調査

## 3. 黒点病

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 6 月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果実に感染しやすい梅雨期に薬剤防除を徹底する。
- (2) マンゼブ水和剤散布後の次回散布時期は、累積降雨量が 200～250mm（マシン油乳剤加用の場合は 300～400mm）に達した時点を目安とする。ただし、同雨量に達しない場合でも、散布後 1 ヶ月を目途に次回の散布を行う。

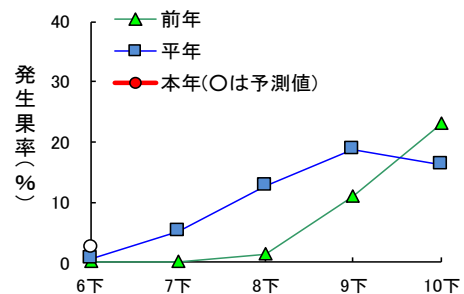


図 1 カンキツ黒点病の発生推移

(3) 枯れ枝や剪定枝は伝染源となるため除去し処分する。園内に残った切り株は抜根するか、ビニルの袋などで全体を覆って病原菌の胞子が飛散するのを防ぐ。

## 4. ミカンハダニ

### 1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年並）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1参照）

発生葉率：15.3%（平年4.9%、前年13.7%）

平年比：多（+） 前年比：並（±）

##### (2) 6月の気象予報

気温が高く、降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

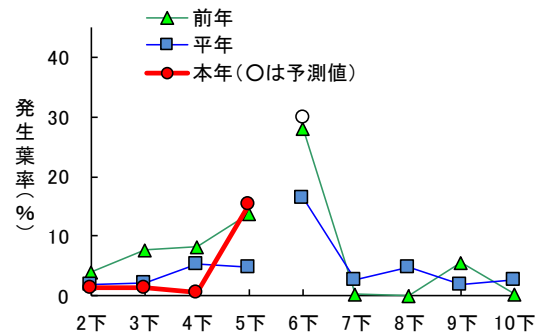


図1 ミカンハダニのカンキツでの発生推移

注) 5月下旬までは旧葉を調査

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 低密度時（寄生葉率30%未満または1葉当たりの雌成虫数が0.5～1頭）に防除を行う。

(2) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同系統の薬剤は年1回の使用とする。また、前年に使用した殺ダニ剤は使用しない。

(3) その他については、特記事項を参照とする。

## 5. チャノキイロアザミウマ

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや少ない）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 黄色粘着トラップ（図1参照）

平年比：並（±） 前年比：少（-）

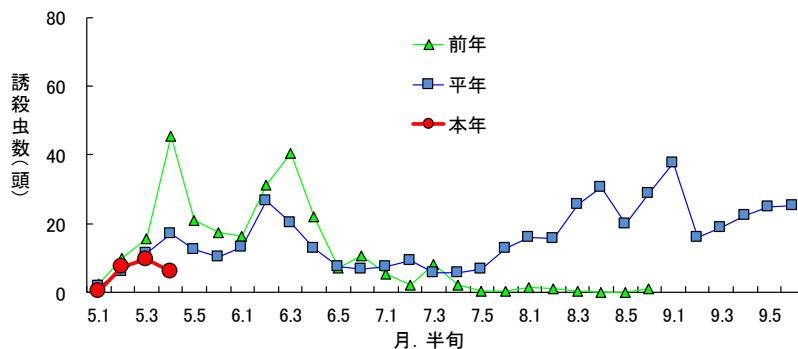


図1 黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの誘殺数の推移（果樹試験場調査）

### (2) 6月の気象予報

気温が高く、降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 近年、第2世代成虫の発生ピークは6月上旬頃にみられている。被害を防止するため、6月上旬までに薬剤防除を実施する。

(2) イヌマキ、サンゴジュ等は本虫の発生源となるため、防風樹として植栽している園では特に発生に注意し、防除を行う。

# ナシ

定期調査 (6 圃場)  
調査日 : 5 月 18 日



定期調査圃場の様子

## 1. 黒星病

[【 概要に戻る 】](#)

### 1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや少ない (前年並)

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査 (図 1、2 参照)

発生葉率 : 0% (平年 1.0%、前年 0.2%)

平年比 : 少 (一~±) 前年比 : 並 (±)

発生果率 : 0.2% (平年 1.3%、前年 0%)

平年比 : やや少 (一~±) 前年比 : 並 (±)

#### (2) 6 月の気象予報

気温が高く、降水量がやや多く、並発生の条件 (±)

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発病葉や発病果実は伝染源となるため除去し、処分する。
- (2) 曇雨天が続くと発生が多くなるので、天候を見ながら適切に防除する。
- (3) その他については、特記事項を参照する。

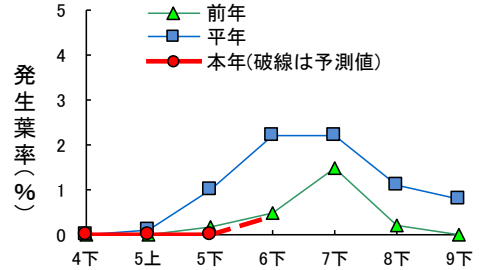


図 1 ナシ黒星病 (葉) の発生推移

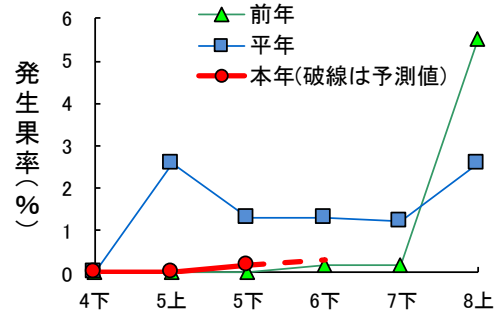


図 2 ナシ黒星病 (果実) の発生推移

## 2. ナシヒメシンクイ

### 1) 予報の内容

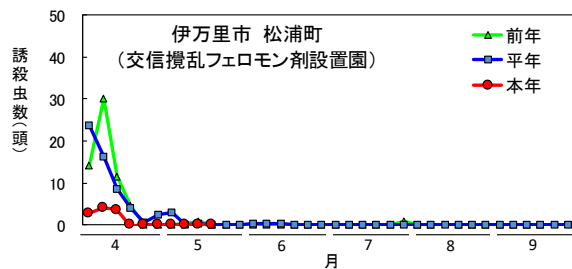
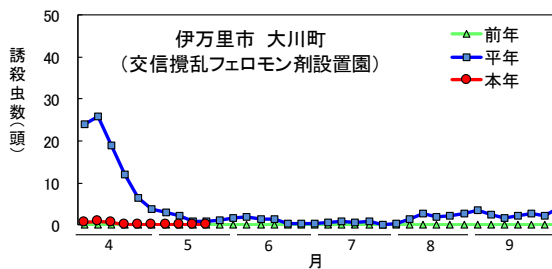
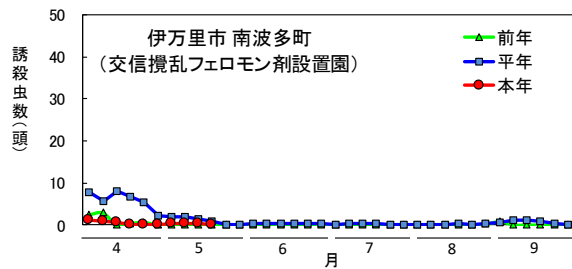
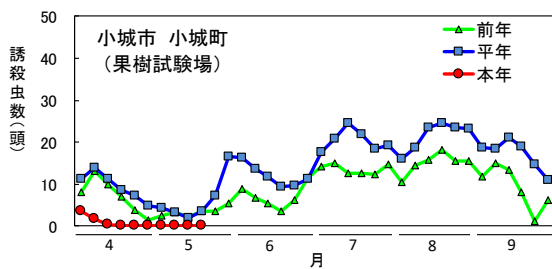
発生量 : 平年よりやや多い (前年よりやや多い)

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① ナシ園に設置したフェロモントラップ (図 1 参照)

平年比 : 並 (±) 前年比 : 並 (±)



※令和元年度より南波多町と大川町のフェロモン設置場所が変更されたため、平年値については参考値とする

図 1 フェロモントラップによるナシヒメシンクイの誘殺数の推移 (果樹試験場、西松浦農業改良普及センター調査)

②サクラに設置したフェロモントラップ（表1参照）

サクラに設置しているフェロモントラップ（伊万里市3ヶ所）での、4月第1半旬から5月第4半旬までの誘殺数は前年よりやや少ない（-～±）。

表1 サクラに設置したフェロモントラップにおけるナシヒメシメクイの誘殺数（頭）  
（西松浦農業改良普及センター調査）※4月～5月4半旬の合計値

地点名	H29年	H30年	R1年	R2年
伊万里市 南波多町	30	38	76	18
伊万里市 大川町	32	10	22	5
伊万里市 新天町	14	78	54	53
計	76	126	152	76

(2) 6月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 交信攪乱フェロモン剤の設置を予定している園では、6月上旬までに設置する。

**ブドウ**

定期調査（6圃場）  
調査日：5月20～22日



定期調査圃場の様子

**1. 黒とう病** [【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生葉率：0.2%（平年0.1%、前年0.8%）  
平年比：並（±） 前年比：少（-）

(2) 6月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 罹病枝葉の剪除と巻きひげの処分を徹底する。

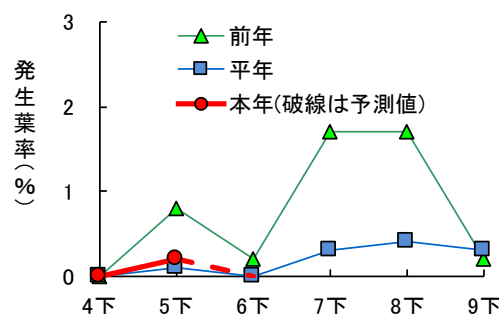


図1 ブドウ黒とう病の発生推移

**2. ベと病**

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生葉率：0%（平年0.1%、前年0%）  
平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 6月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) ブドウベと病では、ストロビルリン系殺菌剤（アミスターフロアブル、ストロビードライフフロアブル等）に対し耐性菌が発生しているため、本病の防除には使用しない。

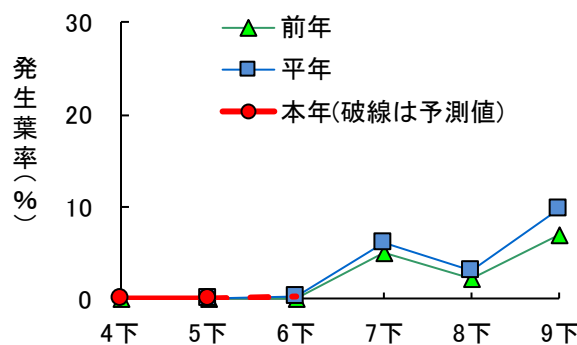


図1 ブドウベと病の発生推移



### 3. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①黄色粘着トラップ（カンキツのチャノキイロアザミウマ（図1）参照）

平年比：並（±） 前年比：少（-）

(2) 6月の気象予報

気温が高く、降水量がやや少なく、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 6月中旬～7月中旬頃は主要な加害時期であるため、薬剤防除を徹底する。

(2) 袋内への侵入を防止するために、袋の締め口をしっかりと締める。

茶

定期調査：7圃場

調査日：5月15～19日



定期調査圃場の様子

### 1. チャノキイロアザミウマ

[【 概要に戻る 】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

20回たたきおとし虫数：9.3頭（平年9.1頭、前年10.9頭）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

②吸引粘着トラップ（図2参照）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

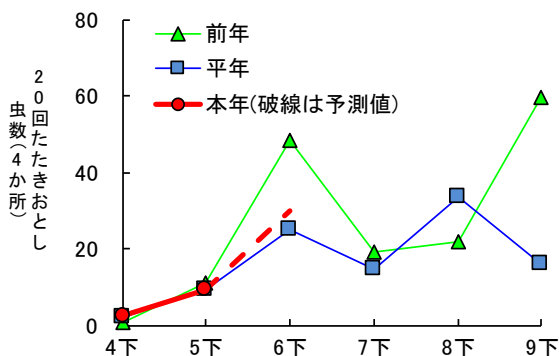


図1 チャノキイロアザミウマの茶での発生推移

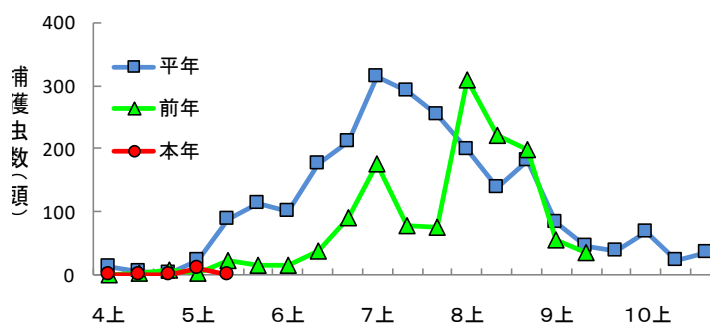


図2 吸引粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの旬別捕獲虫数の推移（嬉野市嬉野町、茶業試験場調査）

(2) 6月の気象予報

気温が高く、降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 二番茶萌芽～二番茶の開葉初期に防除を実施する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

## 2. チャノミドリヒメヨコバイ

### 1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1参照）

20回たたきおとし虫数：0.3頭

（平年2.3頭、前年1.1頭）

平年比：やや少（〜±） 前年比：並（±）

##### (2) 6月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 二番茶萌芽～二番茶の開葉初期に防除を実施する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

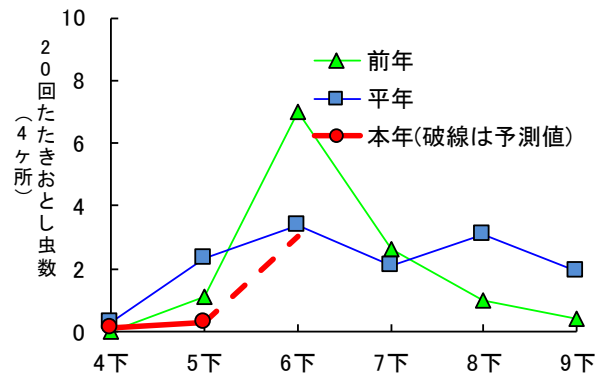


図1 チャノミドリヒメヨコバイの茶での発生推移

## 3. チャノホソガ

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1参照）

被害葉数：0枚/m<sup>2</sup>（平年1.0枚、前年0枚）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

##### ② フェロモントラップ（図2参照）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

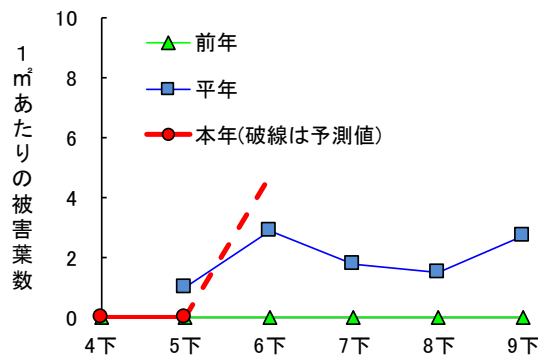


図1 チャノホソガの被害葉数の推移

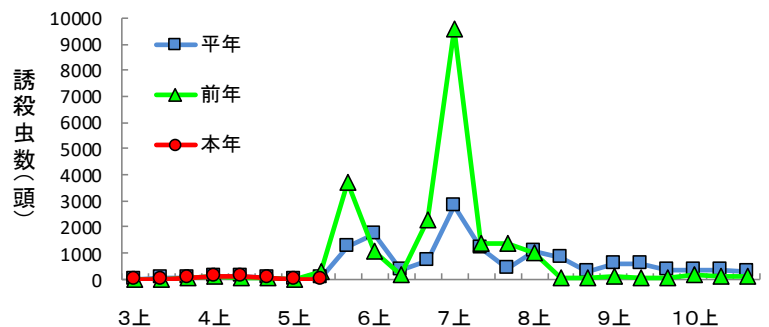


図2 フェロモントラップによるチャノホソガの旬別誘殺数の推移  
（嬉野市嬉野町、茶業試験場調査）

### (2) 6月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 発蛾最盛期から1週間後頃が適期となるのでこの時期に確実に防除を実施する。ただし、二番茶摘採園では、摘採前日数に注意し、新葉展開期に防除を実施する。

## 4. 炭疽病

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

①定期調査（図1参照、H30より5月調査追加）

発生葉数：0枚/m<sup>2</sup>（前年0枚/m<sup>2</sup>）

#### (2) 6月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件〈±〜+〉

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 新芽開葉初期が防除適期となるので、この時期に薬剤散布を実施する。二番茶摘採後に枝条更新を行わない園では、確実に防除を行う。

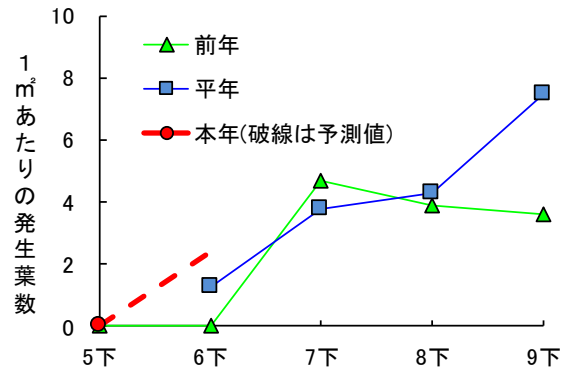


図1 炭疽病の発生葉数の推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部  
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088  
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085  
Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp